

## 小説の対訳データから見る日本語・英語・中国語可能表現の特徴

今泉智子

### 要旨

「～できる」といういわゆる「可能」の意味は、生物が自然界で生きていく上で重要な情報であり、人間にとっても文化的背景を問わず理解可能な意味であると思われる。しかしながら、一口に「可能」と言っても、個体の「能力」を表すものから、事態実現の「可能性」を表すものまで、類似性を持ちながらも異なる複数の意味が関連してくる。それらの意味をどのように捉え、どのようにカテゴリー化し、どのような言語形式を用いて表すかは言語によって異なるが、一方で共通性も見られる。本研究では日本語、英語、中国語の三言語をとりあげ、小説の対訳から収集した可能表現のデータを比較し、各言語の特徴を考察した。その結果、日本語の可能表現は事態における状態を描写する特徴が強いこと、英語は仮定法との関連が強いこと、中国語は意志や未来を表す用法への発展が進んでいることがわかった。さらに、これらの特徴は、日本語が事態埋没型の視点をとる主観的事態把握を好むのに対し、英語、中国語が事態と認知主体を切り離れた客観的事態把握を好むという、事態把握の仕方の違いに関係する可能性があることを論じる。